

学生指導員における陸上競技普及施策に関する研究Ⅳ

伊 東 浩 司*

STUDY ON TRACK-AND-FIELD SPREAD MEASURE IV IN THE STUDENT COACH

Koji Ito

キーワード：陸上競技，普及，学生指導員

1. はじめに

2020年東京オリンピック・パラリンピック（以下、五輪）の開催が近づき、スポーツに対する報道・期待などが日増しに高まってきている。これは、陸上競技（以下、陸上）も例外ではなく、男子400mリレーや競歩などメダルが期待される種目は報道などで多く取り上げられ、期待・人気が高まっている。2020年の五輪にむけて選択と集中での強化「鈴木プラン」がすすめられている現状下、男子400mリレーや競歩など選択された種目に関しては、優遇された強化環境が用意されて実行している。これは日本陸上界の現状で考えると当然のことだが、一方、選択されていない多くの種目は、2016年リオデジャネイロオリンピックまでの強化体制と比べると後退している。また、五輪まではスポーツに対して、大きな期待が寄せられているが、既に公表されているように、五輪開催予定の新国立競技場が、五輪開催後球技専用場になるなど（日刊スポーツ社, online）、日本の陸上競技界にとって決して明るい状況ばかりではないと考えられる。これまで、2005年度から甲南大学（以下、本学）で取り組んでいるランナーズクラブ（以下、ランナーズ）を継続的に運営・指導を行ってきつてくれている本学女子陸上競技部員（以下、女子陸上部）やランナーズクラブのスクール生（以下、スクール生）へのインタビュー調査で現状と課題を分析することによって 本学スポーツ・健

康科学教育研究センター（以下、スポ健）論集第19・20・21号「学生指導員における陸上競技普及施策に関する研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の提言を行ってきた（伊東, 2013；伊東, 2015；伊東, 2017）。今回は、上記のような日本陸上界の現状の中、これまでの提言などをもとに、現在のランナーズを、学生指導員の立場から良い点・改善すべき点などを調査することによって、これまでのノウハウや体育施設の有効利用などに加え、今後、人口減の日本社会において陸上界の競技力向上や普及活動の推進につながると考えていきたい。

2. 神戸市立の義務教育課程の現状と本学女子陸上部の取り組み

2.1 神戸市立学校の現状

本学のキャンパスは（西宮キャンパスを除く）神戸市内にあるが、その神戸市立（以下、神戸市）小学校の児童数は、表1のとおり4年前と比較すると市内9区のうち3つの区で児童数が増加しているが、他の6区では児童数が減少しており、神戸市全体では1742名減となっている。（神戸市教育委員会, online）

しかし、表2のとおり神戸市小学生陸上記録大会の参加申し込み人数を神戸市全体の児童数からみると約一割の児童が申し込みをしているのがわかる（神戸市教育委員会, online）。この記録会は、小学校5・6年

*甲南大学 スポーツ・健康科学教育研究センター 教授

表1 神戸市立小学校の児童数 (神戸市教育委員会 2018年)

	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	合計
2014	11,558	6,013	5,258	3,971	12,551	3,701	8,118	11,412	14,521	77,103
2015	11,340	6,043	5,090	4,094	12,458	3,608	7,967	11,553	14,407	76,560
2016	11,308	6,155	4,478	4,125	12,274	3,578	7,841	11,659	14,189	75,607
2017	11,294	6,272	4,535	4,075	12,146	3,549	7,848	11,763	13,958	75,440
2018	11,240	6,372	4,602	4,103	11,934	3,505	7,847	11,957	13,783	75,361

生を対象としていることを考えると更に高い割合の児童が申し込みをしていることが考えられる。

表2 神戸市小学生陸上記録大会参加者変遷 (神戸市教育委員会 2018年)

	申込総数
2017年度	7,211人
2016年度	7,847人
2015年度	8,052人
2014年度	8,247人

同様に、神戸市立中学校の生徒数も市内9区のうち、生徒数増は1つの区のみで、全体では2127名の減となっている(神戸市教育委員会,online)。陸上部設置校は表4のとおりで、2000年度の70校と比べると今年度は19校減の51校となっている(神戸市教育委員

会,online)。

表5の神戸市中学校の部活動加入人数を2017年度と比べてみると、全体では男子469名・女子237名と減少しているが、陸上部に関しては、若干名であるが増加している。(男子11名・女子100名)表4のとおり設置校数は減少してきていたが、表5のとおり2017年度と比べると部員数は減少していないことを考えるとニーズがあると思われる。部活動設置校に関しても2017年度と同数であり減少はしていない(神戸市教育委員会,online)。

2.2 ランナーズ

現在実施しているランナーズは、2005年度に開講し、施設改修期間の中断を挟み、学生指導員やスケー

表3 神戸市立中学校の生徒数 (神戸市教育委員会 2018年)

	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	合計
2014	4,757	2,599	1,937	2,283	6,127	1,867	3,956	5,489	7,293	36,317
2015	4,808	2,565	2,494	1,783	6,041	1,832	3,952	5,388	7,201	36,064
2016	4,730	2,556	2,251	1,782	6,058	1,779	3,859	5,326	7,099	35,440
2017	4,586	2,597	2,267	1,716	5,975	1,728	3,788	5,382	6,937	34,976
2018	4,510	2,563	2,165	1,668	5,838	1,729	3,612	5,382	6,703	34,190

表4 神戸市立中学校陸上部設置校数 (神戸市教育委員会 2018年)

	設置校数		設置校数
2000年度	70校	2005年度	58校
2010年度	55校	2014年度	53校
2015年度	53校	2016年度	52校
2017年度	52校	2018年度	51校

表5 神戸市中学校部活動加入数(上段)と設置クラブ数(下段)(神戸市教育委員会 2018年)

	男子全体	陸上男子	女子全体	女子陸上	神戸市全体	陸上全体
2017年度	13,568人	1526人	9,381人	1000人	22949人	2526人
	(446校)	(51校)	(386校)	(51校)	(832校)	(102校)
2018年度	13,099人	1537人	9,144人	1100人	22243人	2637人
	(442校)	(51校)	(370)	(51校)	(812校)	(102校)
合計	469人減	11人増	237人減	100人	706人減	111人
	(4校減)	(0校)	(16減)	(0校)	(20校減)	(0校)

ル生にインタビュー調査を実施した本学スポ健論集第19・20・21号「学生指導員における陸上競技普及施策に関する研究」(伊東, 2013: 伊東, 2015: 伊東, 2017)や「大学の地域貢献活動における陸上競技普及施策に関する研究」(伊東, 2011)「ヴィッセル神戸アスレチッククラブの活動について」(伊東, 2012)の提言をもと毎年試行錯誤しながら現在に至っている。活動方針は、陸上をはじめてみたいが、身近に陸上クラブや施設がないという方を対象とし、専門的な練習を極力避け、のびのび身体を動かすこととしている。また、中学校に陸上部がない方やより専門的に陸上を取り組んでみたいという方にも、練習指導・環境を提供していくともしている(甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター, online)。また、2016年度からKONANプレミア・プロジェクトの一つとして、若干名であるが、シニア・幼稚園児の募集も行っている。ランナーズでは、基本、土曜日(9時30分から10時45分の75分間)実施で月2回ペースの年24回実施予定で、そのうちの3回が、習熟度を確認する意味で、公認競技大会である本学記録会に出場している。指導者は、本学女子陸上部コーチ福本幸氏・学生指導員と筆者で、施設は、本学六甲アイランド体育施設(400m6レーン日本陸上競技連盟第4種競技場)である。

2.3 甲南大学記録会

日本陸上競技連盟(以下、日本陸連)第4種公認競技場を取得してから年3回、本学記録会を実施している。その狙いとしては、スクール生の練習継続の成果を保護者の方と共に感じてもらうこととスクール生に競技会出場の機会と作ることで陸上をより知ってもらうことである。また、近隣の中学生に競技会出場の機会を設けることと、女子陸上部部員の競技会企画・運営の「スポーツを支える」ことを学ぶ場ともしている。また、昨年度から、走高跳の普及・強化を目的とした本学走高跳記録会も実施している。

2.4 甲南小学校

甲南小学校(以下、甲南小)は、1912年(明治45年)に開校し、創立者が本学と同じ平生八三郎先生ということもあり、徳・体・知のバランスのとれた、心豊かな人間教育。健全な常識を持った世界に通用する人物の育成を教育方針として掲げている(甲南小学校, online)。その甲南小は学校法人甲南学園や学校法人甲南女子学園とは別法人であるが、多くの同校児童が両学園の中学校へ進学することから、より多くの同校児童が走ることの楽しさを知ってもらうことが将来へ繋がることも考え、今年度から甲南小での授業の一つであるクラブ活動に協力・指導を始めた。

3. 調査方法

2005年度から活動開始をしているランナーズに関して、学生指導員の立場からランナーズ全体・世代区分別(幼稚園・小学校・シニア)での良い点と改善すべき点などに関してインタビュー調査を実施した。

3.1 研究目的

本研究では、本学スポ健論集19・20・21号で提言してきた「学生指導員における陸上競技普及施策に関する研究」(伊東, 2013: 伊東, 2015: 伊東, 2017)をもとに、ランナーズの現場指導にあたる学生指導員の立場からランナーズ全体・世代区分別での良い点と改善すべき点などを調査することで、これまでのノウハウや体育施設の有効利用などに加えて、今後、人口減の日本社会における陸上界の競技力向上や普及活動の推進につながると考える。

3.2 インタビュー項目

学生指導員の立場からランナーズ全体・世代区分別での良い点と改善すべき点に関してなど。

3.3 インタビュー対象

学生指導員 6名

学生指導員 A・B 3年生 女子学陸上部幹部

学生指導員 C・D 3年生 女子陸上部ランナーズ
担当

学生指導員 E・F 2年生 女子陸上部次期幹部候
補

3.4 インタビュー手続き

2018年11月22日 本学スポ健事務所内にある共
同研究室にて、インタビュー調査を実施した。

4. インタビュー調査の結果

2018年度ランナーズの現場指導にあたる学生指導
員の立場からランナーズ全体・世代区分別での良い点
と改善すべき点などを検証することで、今までのノウ
ハウや体育施設の有効利用などに加えて、今後、人口
減の日本社会における陸上界の競技力向上や普及活
動の推進につながると考えた。

4.1 学生指導員 A

良い点として、ランナーズの活動を通して社会貢献
をしているという自覚が生まれ、様々な年齢の人や地
域の人と出会えることができ、女子陸上部の活動PR
にも繋がることをあげ、ランナーズの運営などで、女
子陸上部内での会話が増え、指導する機会・知識向上
などの視点・視野が広がったと述べていた。また、募
集しているスクール生の人数が少ないこともあり対応
がしやすく、今年度から走高跳に特化した本学走高跳
記録会を開催するなど専門的なことを実施することが
できた。中学校への進学や他の習い事などで、継続
できないスクール生がいることで、入れ替わりがあり、
複数年間継続することで、馴れ合いや座って動かない、
落ち着きのないスクール生が減ったことなどが良い点
だとも述べた。一方、改善すべき点などは、ランナー
ズ実施時間が、学生指導員以外の練習時間と重なるこ
とで、以前の本学では、祝日でも授業を実施して
いたが、近年、祝日は授業を実施しない代わりに土曜
日に振替授業が入ることが多くなったこともあり、同
じ学生指導員への負担がかかり、練習量に影響して
いることである。また、怪我をしたときの専門的な知識

がないため、どのように対応したらいいかがわからな
い点があるともあげ、更に、練習内容になるが、リレー
をするときなど、チームによって差が出るのが今後
要検討であるとも述べていた。世代区分別での良い点・
改善すべき点などを聞いていくと、まずは、幼稚園で
は、小学校のスクール生が面倒をみてくれることが良
い点であげ、改善すべき点などとして、保護者がいな
いことへの不安から手を握ったりするスクール生がい
ることや、当然、体力差もあるので、小学生などと同
じ内容ができないなど、配慮を要することが多くある
ことをあげ、今後、スクール生の全体の人数が半数に
なると、運営は難しくなり、その際は、他の世代別と
練習内容などをわけなければならないと述べた。次
に、小学生では、学校などの友達へランナーズの参加
を呼び掛けてくれ、つながりを作ってくれている。同
様に、兄弟での参加をしてくれているスクール生もい
るので、高学年がリーダーになって面倒を見てくれる
ところが非常にいいと感じている。改善すべき点など
としては、男子が集まりふざけてしまうことや低学年
がどうしても他のスクール生と比較して、動きや記録
をみて、批判的な言動などがみえることがある。保護
者が入会させているケースが多く、走りたくないなど
練習そのものを拒否するケースが目立つことがある。
一方、保護者として様々なスポーツなどを取り組ませ
たいこともあり、欠席や退会などスクール生のいれか
わりが多く名前などが覚えにくいことによって、学生
指導員としては運営が難しくなることをあげている。
最後に、シニアでは、学生指導員の手助けをしてくれ、
真面目に取り組んでいただけなので、スクール生が真
似をするなど手本になっていただけのことを良い点と
してあげ、改善すべき点などがどうかかわからないが、
今の練習内容が実際取り組みたい内容なのか、人数も
少ない事も問題で、今後、しっかり考える必要がある
と感じている。また、低学年が増えることで、学生指
導員の人数を考えなければならない、学生指導員の練
習時間の確保を考えて、今後、曜日の変更も検討しな
ければならない。そして、現行のスタイルのままでは、
怪我のなどの救急対応・処置がわからないので、ある

一定の講習などが必要と感じている。陸上をより専門的な練習を取り組みたいと考えているスクール生への対応、継続年数なども関係しているかもしれないが、特定のスクール生のコミュニケーションになりがちなので、できるだけ参加してくれている全員にできるように心がける必要があり、1年間の成果を詳しく伝えることも重要であるとも述べていた。また、甲南小でのサポートに関しては、本学の施設から比較的近いこともあり、本学記録会の案内や実際に学生指導員が競技をしているところみせたり、一緒に動きながら先生のサポートをしつつ、限られた時間の中、この先も継続して行く必要を感じている。甲南中・高に関しては、まず、本学記録会の案内をしてみることから始め、甲南女子中・高に関しても、現時点での活動イメージがわからず、活動状況次第であるが、合宿・日々の練習参加を呼び掛けてもいいと述べている。

4.2 学生指導員 B

ランナーズの現状の良い点としては、スクール生が楽しく練習を実施してくれているので、チームなどを作ることによって各チームに学生指導員が付きやすくなり、スクール生一人一人練習をしっかりみることができている。このことが直接関係してくるかわからないが、口コミなどでランナーズを体験したいという子が増えてきている。当然のことであるが、楽しく練習を実施してくれていることもあり、学生指導員の指導力も向上することができている。また、本学の課外活動強化指定団体の一つとして、活動項目の一つである地域貢献に取り組みありがたいとも述べている。その一方、改善すべき点などとしては、遅刻してくるスクール生が増えてきていることと、学生指導員の担当が偏り、ランナーズ実施中に、担当している学生指導員以外は、通常練習を実施しているため、チーム練習ができないことをあげている。また、トラックシーズンに入ると土曜日に試合があることが多くなり、学生指導員の人数調整困難になっている。世代別区分ではどうかを聞いたところ、幼稚園のスクール生は、人数が少ないにもかかわらず、小学生以上のスクール生と

一緒に練習を実施してくれていることで、練習そのものを楽しめるものへと変えてくれ、学生指導員の立場でも指導しやすい環境になってくれている。しかし、この世代別区分のスクール生に公募人数が若干名としているが、実際にランナーズを運営してみると人数が少ないと感じている。その人数が少ないこともあり、できる練習の幅が必然的に狭くなり、楽しめる練習がもっと提供できればと感じている。小学生になると、ラダー練習など基本的な動作を教えると習得が早いから教えていて楽しく感じ、自分より下のスクール生に教えてあげているケースがあり、傍から見て頼もしく感じることもある。ランナーズそのものに、偏りがなく練習ができ、スクール生とのコミュニケーションがとれていることなどを良い点としてあげている。一方では、こちらの指示を聞かないこともあり、やる気がある時とない時の差が良くわかってしまうことが多くあり、少しスクール生が少ないことも課題としてあげてくれていた。シニアは、幼・小学生のスクール生のお手本になってくれ、この世代区分のスクール生がいることで、学生指導員の指導し甲斐がある。また、人数が少ないため、自分自身のペースでできるという利点があるが、逆に人数が少ないことで、小学生の練習に合わせて実施しているのでは満足度が低いのではないかと心配があるため、もう少し人数を増やせばとも述べていた。今後、継続したいこととしては、準備運動での鬼ごっこなど楽しい練習は継続していきたい。リレーに関しても、普段関わらないスクール生とのコミュニケーションをとれる場であると考え、チームにわかれて練習することや、バトン練習をすることによってアドバイスもでき、スクール生の技術の向上上にも繋がると考えるので今後も継続していきたいし、跳躍系の練習も継続していきたいと考えている。改善すべき点などとしては、スクール生の人数を全体的に増やしていきたい、人数を増やすことで、会費収入が増え器具購入や本学記録会の運営費に回せるのではないかと考える。遅刻をするスクール生が増えてくると次々に出てきてしまうので、早めに出てきてもらうなどの工夫をしてもらい、きちんと素早く動けるよ

うにし、練習時間に遅れが出ないように意識していきたい。今年度から開始した甲南小での指導に関しては、とてもいいことだと感じている。実際に行ってお手本を見せることでその動きを意識してくれたり、聞いてきてくれたり、できたらコーチにできたよと報告してくれるのはとても嬉しいことなので今後も繋がりを大切にしたい。甲南小で陸上を教えることも自分にとって指導力向上に繋がる感じているので、今後も地域貢献を行い、本学強化指定団体の一つとしても継続していきたいと考えている。補足になるが、故障などでのリハビリを実施している学生が自動的にランナーズの運営に入ることは良い案だとも述べていた。

4.3 学生指導員 C

ランナーズの現状の良い点として、普段は指導を受ける立場であるが、指導をする立場を経験することができ、スクール生に教えることで知識が深まり、自分自身の勉強に繋がっている。女子陸上部内でのコミュニケーションを深めるきっかけとなり、スクール生や保護者の方など様々な年代の方と関わることができるため、コミュニケーション能力が身につくと感じている。地域とのつながりを作ることができることで、地域貢献活動の一環や女子陸上部のPRになっていることも良い点だが、一番は、スクール生から元気をもらえることと述べていた。改善すべき点などとしては、ランナーズ後の練習に集中力・体力などで影響が出ることや、部員全員での練習ができないことをあげている。また、開催日に授業や試合が重なることもあげている。世代区分別では、まず幼稚園は、小さい子どもと関わる機会がない為、いい機会になり、関わり方などが将来の勉強になると述べていることに対して、あまり言うことをきかないことや保護者がいなかったり、その日の気分によって泣いたりする時の対処法が難しいこととまだ甘えたい頃なので、べったりされるとせっかく来てくれたのに練習にならないことなどを改善すべき点などとしてあげている。次に、小学生では、何年も来てくれているスクール生の色々な面での成長を見られるのがうれしいと感じ、素直に言うこ

とを聞いてくれるスクール生が多く、色々な話を聞くのが楽しいと述べている。走るが好きでスクール生がいたり、高学年が低学年や幼稚園の子供に声を掛けてくれたりすることで気づく力などが身につくことを良い点であげ、一方、たまに言うことを聞かないスクール生がいることを改善すべき点などとして述べている。シニアは、スクール生とコミュニケーションを図ってくださり、スクール生をあらゆる場面で引っ張ってくれるが、人数が少なく、子ども達に合わせることもあるため、練習内容がシニアの方に合っているかが分からないときがあることが改善すべき点などとして述べている。今後、小学生・シニアの世代区分のランナーズは継続したいが幼稚園生の受け入れは検討が必要であると思うと述べていた。甲南小への指導はランナーズと異なる活動であるが、とてもいいことだと思うと述べていた。上記の事以外に、ランナーズでの取り組みなどは他大学の陸上部ではあまり経験できないことだと考えるので、本学でしかできないこととして勧誘を含め本学女子陸上部のアピールポイントにもなり、甲南カラーにも関係してくるとも述べている。

4.4 学生指導員 D

ランナーズの現状の良い点として、指導力を身につけることができ、幅広い年代の方と関わることで、コミュニケーション能力がつくことである。また、本学女子陸上部を知ってもらえ、地域貢献になる活動のため、やりがいを感じたうえ、地域の方と交流できることをあげ、一方では、陸上のシーズン中は試合や授業と重なることがあり、人数調整に手間がかかることもあり、同じ学生指導員が担当になりやすく、全員でまとまった練習ができないなどランナーズ後の練習に影響がでることを改善すべき点などとしてあげ、時間通りに終わらないことがあるのも改善すべき点としていた。世代区分別では、まずは幼稚園の良い点としては、元気で、楽しそうに走ってくれ、多くのスクール生と交流を深めている。指示を必死に理解しようとしてくれ、ランナーズを楽しみにしてくれているスクー

ル生が多いとしているが、指示に従っていないスクール生がいたり、陸上のルールを理解してもらうのが難しいことや遅刻者がいるということを改善すべき点などとしてあげている。次に小学生に関しては、高学年になるにつれて、陸上のルールを理解して楽しんでくれ、元気で、楽しそうに走ってくれることや積極的に練習に取り組んでくれるスクール生が多く、本学記録会だけでなく地域の試合にも出場してくれるところが良い点だが、自分が気に入らない練習内容だと参加したがらず、指示に従わないスクール生がいるところと遅刻者がいる点を改善すべき点などとして述べている。シニアに関しては、熱心に取り組んでくださり、小学生などのスクール生の見本になってくださることで、学生指導員にも刺激になることが良い点で、改善すべき点などが特にないとのことである。今後は、学生指導員を中心に練習内容を決め、進行していき、小学生の世代区分で低学年と高学年を分けて指導を行い、月2回開催を維持し本学記録会にできるだけ出場し、成果を確かめてもらいつつ、より多くの地域の方に参加してもらうことを考えていきたい。その中で同じ学生指導員に負担がかからないようにするために、ランナーズ終了後の練習を考えると時間通りに終わらせるようにする必要があり、遅刻者をなくしていかないと述べていた。甲南小に関しては、甲南学園に関係深い学校への訪問指導は、本学に貢献していることをよく実感できるので継続していきたいが、平日の授業時間帯の為、学生指導員が毎回同じメンバーになってしまうことを懸念していた。

4.5 学生指導員 E

ランナーズの現状として、地域との関わりができ、様々な人と関わるのでコミュニケーション能力の向上することができ、陸上の良さを色んな方々に知ってもらえることが良い点としてあげているが、ランナーズ後にも練習があるので、部員全員が集まったの練習ができず、学生指導員が十分な練習ができないところを改善すべき点などとしている。世代区別で聞いていくと、まず幼稚園では、小さい頃から体を動かすこと

陸上の楽しさを知ってもらえることが良い点であるが、小さすぎて言うことを聞かない時があることを改善すべき点などとしてあげている。次に、小学生に関しては、小さい頃から体を動かす楽しさや陸上の楽しさを知ってもらえる点が良い点であるが、小学校高学年の人たちがランナーズ後も走り回っている時もあるのでランナーズでの運動量が足りないのかなと思う時があることが改善すべき点などであると述べていた。シニアに関しては、大人になっても陸上を楽しめる環境をできていることと小学生や幼稚園と違った対応があるので社会勉強になること良い点としているが、小学生や幼稚園と同じ内容で満足できていない部分があるのではないかと感じることを改善すべき点などとしている。今後に関しては、当たり前のことだが、こちらが元気を出さないと子どもも元気が出ないので元気に取り組むことと幼稚園と小学生・シニアでも指導の仕方が違ってくることに気をつけつつ、世代区別で異なる練習内容にする必要があるとも述べていた。

4.6 学生指導員 F

ランナーズの現状について、良い点を聞いたところ、本学のスポーツ強化指定団体の一つとして、社会貢献活動に取り組んでいるという自覚を持つ事ができ、実際に指導をすることによって、責任感を持つようになってきた。以前と比べると嫌々ではなく、自主的に動いてくれるスクール生が多くなっている。それぞれの時期にあった練習内容を考えることで、自分自身大変勉強になることが良い点で、改善すべき点などとしては、水分補給後や練習内容が次へ進む際など、全体の集合をかけたときに、遅れたりするなどメリハリがないと感じる時があると述べている。世代区別で聞いていくと、まずは幼稚園の良い点としては、指導を素直に受け止めてくれ、頑張る姿・発言で、小学生のやる気を起こさせてくれることをあげてくれた。改善すべき点などとしては、保護者の方が見えなくなると不安になり、泣いたり・練習の継続ができない時がある。また、経験不足もあるが、大人しいスクール生に対しての対応がわからなく、困ることがある。年齢や

体力が低いこともあり、現在行っている陸上の基礎的な練習を継続するか、遊びの中でできる練習に変更した方がいいのかを悩むことがある。次に小学校では、良い点としては、実際にやりたいことを発言し、積極的に練習へ参加してくれるスクール生が多く、他のスクール生、特に、年下のスクール生の面倒をみてくれることがある。改善すべき点などとしては、慣れてくると特定のスクール生と組めないと嫌がる場合があり、その対処法が難しく、苦手な事に挑戦しようとするスクール生にはどう促すかなどを改善すべき点などをあげ、遅刻してくる子が多いことも述べていた。シニアに関しては、子ども達のお手本となってくれているが、子ども達と同じ練習内容で満足されているかが改善すべき点などとして述べている。今年度から始めた個人カードの作成を継続していきたいが、持って来てくれるスクール生がとても少ないので改善する必要があると考えている。甲南小に関しては、学生指導員がもっと積極的に子ども達に助言などをしていきたいとも述べていた。

5. 考察

過去におこなった3回の「学生指導員における陸上競技普及策に関する研究」調査からの提言などをもとにランナーズなどを継続・実施している（伊東，2013；伊東，2015；伊東，2017）。今回の調査では、2016年度から開始している幼稚園・シニアを含めた良い点と改善すべき点などについて、学生指導員にインタビュー調査を実施した。その結果、これまでの経験、調査提言などをもとに学生指導員そのものが大きく成長していることがわかった。練習内容や指導に対して学習する姿勢、学生指導員同士・スクール生などのコミュニケーションが増え、地域貢献として部の活動PRにも大きく影響していることと述べているところである（甲南大学体育会女子陸上競技部 online）。学生指導員Cさんが、近隣の他大学では実体験できないことができることも述べてくれている。これまで、試行錯誤して積み上げてきたことが良い方向へむかっていると感じている。しかし、2016年度から開始した

幼稚園・シニアの練習内容を含めた問題やスクール生全体で遅刻者が多いことを改善したいという前向きな気持ちが伝わり、これまでの提言などが生かされていることが実感できた。学生指導員がランナーズでの怪我対応等が難しいという意見があったが、日本スポーツ協会ジュニアリーダー資格を取得できる講義を本学でも開講しており、履修学生が少ない現状を考えるともっと告知をして、様々な知識を勉強した上で、このランナーズなどに関わってくると、もっと違った幅の広い対応ができ、今までと異なる目線で指導などができるを考える。また、学年暦などの関係や所属学連の試合配置の関係からくるランナーズの土曜日実施と学生指導員の練習時間などの確保の難しさも前回調査と同様にあげられた。この競技会配置に関しては、サッカー・ラグビーそして、陸上界にある協会などの団体との関係で非常に難しい問題である。このような現状を、大学施設の有効利用を含めたテーマを少しでも解決・改善していこうとするのが、2019年3月1日から開始予定の「UNIVAS」である。このように学生が困難な状況下に置かれていることを考えると本学としても「UNIVAS」に加入して行く必要があると考える。大学の施設有効活用に関して、現在日本国内には、日本陸連公認競技場（全天候競技場のみ）は、第1種46・第2種99・第3種205・第4種80の計430の競技場がある（公益財団法人日本陸上競技連盟,2018）。これらの競技場の多くが球技系との共存で、それに加えて各陸上協会（中体連・高体連・実業団など）との日程調整が年々難しくなっている。このような背景から第4種公認競技場を中心として大学施設の普及的役割が求められる。表7・8のように、国内の大学には、第4種公認競技場が29大学、第3種公認競技場が14大学ある。体育系の学部・コースなどがあり、部員数が多い大学などでは、年10回前後公認競技会を実施しているが、第4種公認競技場でありながら公認競技会を多く開催できない大学が多い現状がある（公益社団法人日本学生陸上競技連合, online）。その背景としては、公認競技会を運営するにあたって審判の確保や学内の他団体などとの調整の難しさなどが

考えられるが、一番の原因は、公認記録として認められるためには、日本陸連競技規則に記載されているとおり、次の3つが公式の計時方法として認められると記載されているところである。(1)は道路・競歩競走であるが、(2)手動計時(3)写真判定システムによる全自動計時(電気計時)となっている(公益財団法人日本陸上競技連盟,online)。本学を含めて多くの公認競技場がある大学では、(2)の手動計時の条件をみたしているが、(3)の写真判定システムによる全自動計時を揃えるためには高額な費用がかかるため購入が難しく、リースをして競技会を開催する大学もあると聞いているところである。今後、日本陸連競技規則ではIAAFに承認された写真判定システムが使用されるべきであると記載されていることから、国内で販売されているシステムと比べて国外で安価なIAAFに承認されたシステムも導入を考え、国内で公認記録として認められない可能性があるとしても、IAAF公認システムで測定したイベントを行うことで、陸上の楽しさを広めて行くことも、施設の有効利用として普及活動へ繋がると考える。一方、走高跳などの跳躍種目に関しては、写真判定システムによる全自動計時などを揃える必要がなく公認競技会を開催できることと、本学女子陸上部に福本幸氏という長きにわたり走高跳で日本の第一線で活躍しているプレイングコーチがいることもあり、走高跳に特化しての競技会開催を一昨年度から試験的に実施している。その走高跳は、表6のとおり、日本ランキング1位の記録をみると2103年度の1m92以降、世界規模の大会に出場の可能性が出てくる1m90以上を跳んでいる競技者は1名もいない。ちなみに2019年ドーハで開催予定の世界選手権大会参加標準記録は1m94である。また、すべての世代区分をみると全て横ばいに近く大きな変化ない状況で、特に中学ランキング1位と高校ランキング1位の記録を比べると大きな差がない(公益社団法人日本学生陸上競技連合,2011:月刊陸上競技社,2009)。今後、記録を定期的に挑戦できる機会を作り、走高跳の普及・強化につなげたいと始めた本学走高跳記録会である。現場では、これまで実施して

きた試合配置等があるためか、中々浸透するのが難しい状況であるが、女性スポーツが多様化している時代である今こそ、一人でも多く走高跳をする機会を増やしていきたいと考える。一方、スポーツ省が2017年度の「体力・運動能力調査」の結果を発表した。幼少期に「外遊び」が多い子どもほど、物事を最後までやり遂げる粘り強さが強いことが分かったとしている(斎藤,2018)。ランナーズなどKONANスポーツクラブの重要性を再確認することができた。また、子どもの体力は近年、向上傾向にあるといえ、ピークだった1985年度ごろと比較すると依然として低い水準にあり、特に、持久走が低下していると言われている(矢内,2018)。現在、ランナーズで積極的に取り入れている鬼ごっこ・じゃんけんりレー・オリジナルサーキットの重要性を再認識し継続していきたいと考える。そして、男性の運動・スポーツの実施率は上昇しているが、女性は、小学校と高齢者の実施率こそ上昇しているものの、中学生から40代までにかけての実施率は低下している。特に、「週に1日も運動しない」という人の割合は、中学生から急激に増加し始め、18~19歳ごろには4割以上とピークに達していることから、女性の運動離れは、中学校時代から始まっていると言われている。現在実施しているランナーズや本学記録会などで中学校時代に陸上をする機会を提供の継続をしながら、今年度から開始した甲南小での活動も継続していきたいと考える。甲南小で関わられた多くの女子児童が進学するのが、甲南女子中学校である。その甲南女子中学校のHPでは、学校法人甲南学園、学校法人甲南学園甲南小学校・同幼稚園、財団法人甲南病院及び本学園の甲南4法人の絆を更に深め、4法人共通の創立精神のもと、それぞれの特徴を強化し、更に英知を結集して、教育・医療における社会貢献を果たしていくと書かれている(甲南女子中学校、online)。学生指導員Aさんが、甲南女子中学校に関しては、現時点での活動イメージがわからなく、活動状況次第であるが、合宿・日々の練習参加を呼び掛けてもいいと述べているように、活動状況をしっかり調査し、引き続き陸上を楽しんでもらう活動に取り組みことで、女性の

スポーツ継続のモデルケースを構築できればと考える。今後、これまで3回に渡り「学生指導員における陸上競技普及施策に関する研究」の提言などに加え(伊東, 2013:伊東, 2015:伊東, 2017), 今回のインタビュー調査で判明したことを踏まえてランナーズなどを実施することで, 更に具体的な地域貢献・普及活動という概念へ繋がって行くと考えている。

6. まとめ

ランナーズは, 本学スポ健論集 19・20・21号で提言してきた「学生指導員における陸上競技普及施策に関する研究」(伊東, 2013:伊東, 2015:伊東, 2017)などをもとに, これまでのノウハウや体育施設の有効利用などに加えて, 今後, 人口減の日本社会においての陸上界の競技力向上や普及活動の推進につながると

考え, ランナーズの現場指導にあたる学生指導員の立場からランナーズ全体・世代区分別での良い点と改善すべき点などを調査した結果以下のことがわかった。

- 1) これまでの「学生指導員における陸上競技普及施策に関する研究」などに基づいて, 試行錯誤ランナーズを運営してきたことが, 学生指導員の意識向上と継続・改善すべき点などが明確化した。
- 2) 日本陸連公認競技場を所有する大学の競技会実施回数から今後新たな取り組みを検討・実施することが急務である。
- 3) 本学が関係する別学校法人での, 学生指導員による指導協力により, 女子の運動不足が中学生から急激に増加している現状を解決するモデルケースに繋がる可能性がないかを模索していく。

表6 走高跳 年次・世代別最高記録の推移

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
日本	1 m85	1 m85	1 m87	1 m90	1 m92	1 m84	1 m84	1 m81	1 m83	1 m83
学生	1 m82	1 m82	1 m79	1 m80	1 m76	1 m76	1 m82	1 m81	1 m83	1 m83
高校	1 m78	1 m75	1 m81	1 m79	1 m82	1 m79	1 m79	1 m81	1 m78	1 m76
中学	1 m72	1 m73	1 m77	1 m70	1 m72	1 m67	1 m73	1 m75	1 m75	1 m75

表7 第3種公認競技場大学記録会等実施回数 (日本学生陸上連合ホームページより)

	記録会	種目別	定期戦		記録会	種目別	定期戦
仙台	9			筑波			
国際武道	8	1		順天堂	10	4	
中央	2			法政	6		2
国土館	9	1		日本体育	6	10	1
東海	4	14		中京	9		
大阪体育	6	7	1	福岡	2		
九州共立	9	1		鹿屋体育	10		

表8 第4種公認競技場大学記録会等実施回数 (日本学生陸上連合ホームページより)

日本	9 + 種目別 1	東京女体	9	広島経済	6
東京学芸	5 + 種目別 2	びこスポ	5	京都産業	種目別 7
びこスポ	5	新潟医療	4	甲南	4 + 種目別 6
島根	4	名桜	4	福島	3
金沢星陵	3	岐阜経済	3	立命館	3
慶応義塾	1 + 種目別 1	早稲田	1 + 種目別 6	東京	2 + 定期戦 1
	定期戦 1		定期戦 1		
日本女体	1 + 種目別 1	大東文化	1	一橋	定期戦 2
関西学院	1	徳山	種目別 2		
未実施・不明校	城西・帝京八王・帝京千住・山梨学院・関西・至学館・環太平洋				

謝辞

今回、本論の執筆にあたり、インタビュー調査に協力していただき、日々の現場でのスクール運営に協力をしていただいている学生指導員には、この場を借りて心よりお礼を申し上げます。また、学生の成長を見守って下さるスクール生と保護者の皆様、そして女子陸上部コーチの福本幸コーチ、スポ健事務職員の皆様にも心より感謝申し上げます。

参考・引用文献

- 伊東浩司（2011年）大学の地域貢献活動における陸上競技普及施策に関する研究 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集第18号 pp.13-28
- 伊東浩司（2012年）ヴィッセル神戸アスレチッククラブの活動について スプリント研究 第21巻 pp.45-51
- 伊東浩司（2013年）学生指導員における陸上競技普及施策に関する研究 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集第19号 pp.57-74
- 伊東浩司（2015年）学生指導員における陸上競技普及施策に関する研究Ⅱ 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集第20号 pp.11-18
- 伊東浩司（2017年）学生指導員における陸上競技普及施策に関する研究Ⅲ 甲南大学スポーツ・健康科学教育研究センター論集第21号 pp.17-25
- 月刊陸上競技（2009年）2009年度記録集 月刊陸上競技社・講談社 pp.48-49,72,88
- 月刊陸上競技（2010年）2010年度記録集 月刊陸上競技社・講談社 pp.49,72,88
- 月刊陸上競技（2011年）2011年度記録集 月刊陸上競技社・講談社 pp.54,86-87,111
- 月刊陸上競技（2012年）2012年度記録集 月刊陸上競技社・講談社 pp.54-55,93-94,123
- 月刊陸上競技（2013年）2013年度記録集 月刊陸上競技社・講談社 pp.55-56,99-100,129
- 月刊陸上競技（2014年）2014年度記録集 月刊陸上競技社・講談社 pp.56,99-100,129
- 月刊陸上競技（2015年）2015年度記録集 月刊陸上競技社・講談社 pp.56,99-100,129
- 月刊陸上競技（2016年）2016年度記録集 月刊陸上競技社・講談社 pp.57,103-104,134
- 月刊陸上競技（2017年）2017年度記録集 月刊陸上競技社・講談社 pp.57,103-104,134
- 公益社団法人日本学生陸上競技連合（2011年）日本学生記録年間 月刊陸上競技社 P33
- 公益社団法人日本学生陸上競技連合（2012年）日本学生記録年間 月刊陸上競技社 P33
- 公益社団法人日本学生陸上競技連合（2013年）日本学生記録年間 月刊陸上競技社 P33
- 公益社団法人日本学生陸上競技連合（2014年）日本学生記録年間 月刊陸上競技社 P33
- 公益社団法人日本学生陸上競技連合（2015年）日本学生記録年間 月刊陸上競技社 P33
- 公益社団法人日本学生陸上競技連合（2016年）日本学生記録年間 月刊陸上競技社 P33
- 公益社団法人日本学生陸上競技連合（2017年）日本学生記録年間 月刊陸上競技社 P33
- 公益社団法人日本学生陸上競技連合 北海道学生陸上競技連盟 <http://www.iuau.jp/jigyoo/2018/1jigyoo.html> (情報取得 2018年12月6日)
- 公益社団法人日本学生陸上競技連合 東北学生陸上競技連盟 <http://www.iuau.jp/jigyoo/2018/2jigyoo.html> (情報取得 2018年12月6日)
- 公益社団法人日本学生陸上競技連合 北信越学生陸上競技連盟 <http://www.iuau.jp/jigyoo/2018/4jigyoo.html> (情報取得 2018年12月6日)
- 公益社団法人日本学生陸上競技連合 関東学生陸上競技連盟 <http://www.iuau.jp/jigyoo/2018/3jigyoo.html> (情報取得 2018年12月6日)
- 公益社団法人日本学生陸上競技連合 東海学生陸上競技連盟 <http://www.iuau.jp/jigyoo/2018/5jigyoo.html> (情報取得 2018年12月6日)
- 公益社団法人日本学生陸上競技連合 関西学生陸上競技連盟 <http://www.iuau.jp/jigyoo/2018/6jigyoo.html> (情報取得 2018年12月6日)

公益社団法人日本学生陸上競技連合 中四国学生陸上
競技連盟 <http://www.iuau.jp/jigyo/2018/7jigyo.html>
(情報取得 2018年12月6日)

公益社団法人日本学生陸上競技連合 九州学生陸上
競技連盟 <http://www.iuau.jp/jigyo/2018/8jigyo.html>
(情報取得 2018年12月6日)

公益財団法人日本陸上競技連盟(2018年) 陸上競技
ルールブック 2018年度版 株式会社ベースボール・
マガジン社 pp.185 - 189

公益財団法人日本陸上競技連盟(2018年) 陸上競技
ルールブック 2018年度版 株式会社ベースボール・
マガジン社 pp.505

神戸市教育委員会 神戸市立学校園 学級数・児童
数等 [http://www.city.kobe.lg.jp/child/education/
children/index.html](http://www.city.kobe.lg.jp/child/education/children/index.html) (情報取得 2018年12月6日)

甲南大学体育会女子陸上競技部 [https://konan-
univtf.wixsite.com/konanuniv](https://konan-univtf.wixsite.com/konanuniv) (情報取得 2018年12
月6日)

甲南大学スポーツ・健康科学教育センター [http://
www.konan-u.ac.jp/education/sports/](http://www.konan-u.ac.jp/education/sports/)
(情報取得 2018年12月6日)

甲南小学校・甲南幼稚園 教育方針 [http://www.
konan-es.ed.jp/policy.html](http://www.konan-es.ed.jp/policy.html) (情報取得 2018年12月
6日)

甲南女子中学校 甲南女子高等学校 教育方針
[http://www.konan-gs.ed.jp/contents/outline/index.
html](http://www.konan-gs.ed.jp/contents/outline/index.html) (情報取得 2018年12月6日)

日刊スポーツ「新国立競技場、五輪後はトラック撤去
で球技場専用へ」

[https://www.nikkansports.com/sports/
news/1815112.html](https://www.nikkansports.com/sports/news/1815112.html) (情報取得) 2017年4月29日

日刊スポーツ「新国立に屋根できる!?五輪後の「球
技専用」固まる [https://www.nikkansports.com/
general/nikkan/news/1862753.html](https://www.nikkansports.com/general/nikkan/news/1862753.html) (情報取得
2017年7月27日)

斎藤剛史(2018年)「幼児期の外遊びが運動習慣のカ
ギに」内外教育 2018年11月6日 P6 矢内忠 (2018
年)「週5日以上遊ぶ子が半減」内外教育 2018年